



地震はこれ以上こないでほしい。 残された家族で仲良く暮らしたい。

就労継続支援B型事業所 かなん

- ◎利用者：今野さん(男性／当時37歳・知的障害)
- ◎施設長：柳橋さん



— 事業所の外観 —



— 施設長の柳橋さんと利用者の今野さん —

利用者

両親や仕事を失いながらも、
周囲の手を借り平穏な暮らし
を取り戻す。

今野さんは、一般就労していた石巻市のケーキ屋で、仕事中に地震に遭遇しました。家族の安否や家のことが気になりましたが、地震の影響で帰ることができず、その日は職場に泊まりました。

震災で、今野さんは両親を失うつらい現実と直面します。それでも、大好きなお兄さんとお姉さんは無事でした。支援者の計らいもあり、3人は障害のある方が避難所に使用していた障害者支援施設「ひたかみ園」に身を寄せ、仮設住宅が完成する7月までお世話になりました。

避難所にいた頃、今野さんの気持ちは不安定でしたが、周りの支えもあり兄弟3人で力を合わせて過ごしました。しかし仮設住宅に引っ越した頃、通勤路で交通事故に遭ったこともあり仕事の継続が難しくなっていました。仮設で仕事がないまま過ごす今野さんを案じた周囲の支援者が、「ひたかみ園」と同じ法人内の就労継続支援B型事業所「かなん」を勧めてくれ、今野さんは「かなん」に通うことになりました。

「かなん」では、お菓子の製造やしいたけの栽培などを行っています。今野さんは、特にしいたけの栽培が好きになりました。水やりや収穫、パック詰め、シール貼りなどさまざまな作業があります。今野さんはそれらの作業に夢中になることで、仕事の楽しさややりがい、生き生きとして暮らす毎日を取り戻すことができました。今では、新しく入所してきた後輩に指導することもあるベテランに成長しています。

今野さんは今、お兄さんやお姉さんと一緒に、2016年に完成した災害公営

住宅で生活をしています。当時を振り返り、今野さんは「地震はこれ以上こないでほしい」と話します。大好きなお兄さん、お姉さんと仲良く暮らせる今の生活が、ずっと続くことを切に願っています。

災害 対応

出来ることをして地域に貢献
した、それぞれの事業所の
災害対応。

今野さんが避難所として生活した「ひたかみ園」は指定避難所ではありませんでしたが、建物が奇跡的に倒壊を免れたため自然に被災者が避難してきました。その後、他の避難所などで、一般の方と避難生活を送るのが困難だった障害者や家族に呼びかけを行い、共に生活することになりました。「ひたかみ園」は、避難所としての役割を終えるまで、そのような避難された方々の支援に当たって来ました。

一方、地震や津波の被害はなかった「かなん」ですが、家族と連絡が取れない利用者さんや家に戻ることが難しい利用者さんがいました。職員は、施設のコンクリートの床にダンボールを敷き、近所から毛布等を支援していただき、施設の中で職員と利用者さんが共に過ごしました。

「かなん」施設長の柳橋さんは、今後も利用者さんを守るようにと、避難マップやマニュアル作成、避難訓練に力を入れています。利用者さんの中には避難訓練の度に当時を思い出し、パニックになる方もいます。柳橋さんは彼らと共に現実を見つめ、強くなっていきたいと話しています。